

## 1. めざす学校像

建学の精神	「人はみな神の氏子である」という金光教祖の広大かつ自然な教えにもとづき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う
教育理念	「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」教育の実践
教育スローガン	「文武両道の心豊かな人間を育む金光大阪」 <ul style="list-style-type: none"><li>文武両道の共学進学校として、地域から一定の評価を受けている現状から、さらに全教職員が組織的な努力を重ね、一層の躍進を期する。</li><li>日々の教育実践において学習指導、部活動指導を行うに先立ち、生徒指導の充実を図る。教職員は弛まない自己研鑽に努める。</li></ul>

## 2. 中期的目標

1. 次代を生き抜く確かな学力の育成 (1) 学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。 ア. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。 イ. 学習意欲の高い生徒に対して、さらに学力を伸ばす工夫をするとともに、到達度の低い生徒に対して補習等を実施し、日々の授業がわかるものにしていく。 ウ. 授業だけでなく、自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養う。 ※生徒アンケート教科学習に対する「興味・関心」、「授業理解」、「向上への意欲」の各肯定回答を順次引き上げ、平成 31 年度にはそれぞれ 80%以上にする。
2. 教員の自己研鑽の推進 (1) 各種研修を通して教員としての力量向上を図る。 ア. 校内および関西金光学園法人レベルでの研修や校外研修を通して、教員それぞれの指導力の向上を図る。 ※校外教員研修に原則全員の教員が参加し授業力向上に努め、平成 31 年度には生徒アンケート「授業の工夫」「教材の工夫」についての肯定回答を 90%以上にする。
3. 豊かな人間性の育成 (1) 互いの個性を認め、尊重しあい、一層安心できる学校生活を確立する。 建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般、とりわけ宗教情操教育を通じて、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。 ア. 全教員が生徒に対し、いじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。 イ. 集団の中で的人格形成の場としての部活動、課外活動への積極的な参加をうながす。 ※新入生の部活動加入率を平成 31 年度には 80%以上としそれを維持していく。
4. 基本的生活習慣の確立 (1) 心身ともに生涯にわたって健やかに生きるための生活習慣を確立していく。 ア. 「生活習慣力」「時間管理能力」「計画実行力」「経験活用力」を身につけさせる。 イ. 遅刻をなくし、欠席がちな生徒に対し手厚い指導を行う。 ※生徒アンケート「毎日予習復習をしている」生徒を平成 31 年度には 75% (3/4) 以上とする。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○教員による自己評価は年1回実施しており、より良い教育を提供できるよう教育活動の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すものである。</p> <p>【肯定意見が高かった項目】</p> <p>下記「肯定意見が低かった項目」2項目以外、すべての項目で肯定意見が98%以上（否定意見1名以下）であった。</p> <p>【肯定意見が低かった項目】</p> <p>肯定意見98%未満（否定意見2名以上）の項目は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外の研修に参加して、授業方法等について検討改善する機会を持っている。(97.6%)</li> <li>・定期的な懇談以外に、電話連絡や家庭訪問をするなど保護者との連携を積極的にすすめている。(97.4%)</li> </ul> <p>【分析】</p> <p>教員による自己評価は全27項目中肯定的評価が25項目で98%以上（否定意見1名以下）、内16項目で100%と高く、各教員は日々真摯に教育活動に取り組んでいると認識している。数年来課題であって昨年改善された、教員の研修に係わる項目についても97.6%（昨年96.3%）と、さらに高い結果となった。</p> <p>○生徒アンケートは年2回実施しており、授業担当者にとって授業を改善するデータとするともに、生徒自身が授業への取組み方、学習状況を振り返るものである。「前期」のアンケート結果を踏まえた「後期」の集計結果をみると以下の通りであった。</p> <p>【肯定意見が高かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題等は、採点後速やかに返されたか 中学 96% 高校 89%</li> <li>・生徒の質問には、正しくきちんと回答してくれたか。 中学 94% 高校 89%</li> <li>・授業では、視聴覚教材や先生自作のプリント類はよく使われたか 中学 91% 高校 88%</li> </ul> <p>【肯定意見が低かった項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも予習と復習をきちんとしていたか。 中学 51% 高校 54%</li> </ul> <p>【分析】</p> <p>教授法、生徒対応については、ほとんどの項目で肯定的な回答を得られた。自らの授業に対する取組みに関する項目では教授法、生徒対応に比べ肯定的な回答は低いが、1年次からの経年比較では学年を追うごとに向上している。</p>	<p>・トータル的にみれば教職員がしっかりと取り組んでいる。</p> <p>・教職員による自己評価は、どうしても良い回答になり勝ちであると思うが、そんな中であって「到達度の低い生徒に対して、意欲や興味・関心を引き出す工夫をしている」「生徒に対して情報化社会に必要な能力を身につけさせる指導を行っている」「校内で他の教員の授業を見学したり、校外での研修に参加したりして授業方法等について検討・改善する機会をもっている」の項目が低いと思う。改善が必要ではないか。</p> <p>・生徒アンケートにおいて昨春の卒業生に比べ今春の卒業生が、経年比較で高3後期アンケートの結果に肯定意見の下降が見られる。</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 次代を生き抜く確かな学力の育成	<p>学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。</p> <p>ア. 確かな人生観・職業観に基づく学習への興味・関心の醸成。</p> <p>イ. 個々の学習状況に応じた指導の工夫。</p> <p>ウ. 自学自習の習慣の確立。</p> <p>エ. 「使える英語力」の向上。</p>	<p>ア. 進路総合学習のみならず、二者懇談等学校教育活動全般に亘って、自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。</p> <p>イ. 学習意欲の高い生徒に対して、早朝・放課後の進学講習を実施し、さらに学力を伸ばしていく。また、中高とも、到達度の低い生徒に対して補習を行い、日々の授業をわかるものにしていく。</p> <p>ウ. 自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養うため、自習室をはじめ、校内での自学自習環境を整える。「学習タイム」のさらなる充実を図り自学自習の姿勢を確立する。</p> <p>エ. 交換留学、模擬国連、TOEFL対策講座などの新しいプログラムのさらなる充実を図り、対象を拡大し、学校全体として「使える英語力」の向上に努める。</p>	<p>ア. 生徒アンケート各教科に対する「興味・関心」の項目において肯定の回答が全科目平均80%以上。</p> <p>イ. 生徒アンケート「授業の理解」に関する項目の肯定回答が全科目平均80%以上。</p> <p>ウ. 生徒アンケート「向上への意欲」項目の肯定回答80%以上。</p> <p>エ. 各プログラムにおいて、一定数の生徒が年間を通じて継続的に取り組んでいたか。</p>	<p>ア. 興味・関心については72%と昨年より2ポイント向上した。なかでも、高校では1年生61%、2年生71%であったが3年生で77%と学年が上がるにつれ目標値に近づいた。学力の3要素の一つ「主体的に学習に取り組む態度」を養うため、全学年を通してさらなる向上を図りたい。(○)</p> <p>イ. 授業の理解に関しては全科目の平均が79%と目標値をほぼ達成できたが、高校1年生では71%と他学年と比較して低い。中学から高校への学習移行がスムーズにいくよう、個別の学習計画に対する指導を充実させたい。(○)</p> <p>ウ. 向上への意欲は59%で昨年から下降した。来年度夏に導入するICT等を用いた、更なる教授法の工夫を図っていきたい。(△)</p> <p>エ. 計画していた、交換留学、模擬国連、TOEFL対策講座以外にも、ワールドスカラーズカップ(WSC)への参加など、教員と生徒が積極的に英語を用いたプログラムに参加できた。今後は輪を更に広めたい。(○)</p>
2. 教員の自己研鑽の推進	<p>各種研修を通して教員としての力量向上を図る。</p> <p>ア. 指導力向上のための研修開催。</p> <p>イ. 教科教授法の多角的な研究の推進。</p>	<p>ア. 年2回開催される校内および関西金光学園法人レベルでの研修を通し、学園方針に沿った教員の指導力向上を図るとともに、各種研修会、学校見学会に参加し力量を高める。</p> <p>イ. 校内研修の充実を図り、互いの教授法についての研鑽に努める。また、校外研修に積極的に参加し、教科教授法の多角的な研究を行うことで、授業力の向上を目指す。</p>	<p>ア. 生徒アンケート「授業の工夫」、「話し方の良否」、「教材の工夫」に関する項目の肯定回答それぞれ90%以上。</p> <p>イ. 全教科において研究授業を実施。</p> <p>イ. 教科教授法に関する校外研修への参加数、延べ50人以上。</p>	<p>ア. 授業の工夫89%、話し方の良否89%、教材の工夫90%とすべての項目でほぼ目標を達成できた。次年度もこの値を維持できるように努めていきたい。学園レベルでの研修も新任研修と企画運営委員対象の研修を2回開催。学園、学校の教育理念を確認できた。(○)</p> <p>イ. 国社数理英で研究授業を実施。昨年度「公開授業の域をでない」との総括を受け、「ねらい」を明確にした研究授業となった。また、校外研修への参加数延67人と、目標値を達成できた。(◎)</p>

<p>3. 豊かな人間性の育成</p>	<p>互いの個性を認め、尊重しあい、一層安心できる学校生活を確立する。</p> <p>ア. 人権意識の向上に向けた指導体制の整備</p> <p>イ. 部活動を通じての人格形成</p>	<p>建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般、とりわけ宗教情操教育を通じて、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。</p> <p>ア. 年度初めの人権教育推進委員会において生徒への指導計画を作成。人権教育推進委員会やいじめ防止対策推進委員会を定期的に開催し、生徒にいじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。</p> <p>イ. 部活動の教育的意義について、教師間で共通認識をもち、新入生へ積極的な参加を促す。そのために多様な部活動の創設を検討するとともに、部活動紹介の充実や、仮入部期間を設定など、新入生が部活動に参加しやすいプログラムを再検討する。</p>	<p>ア. 生徒指導問題の早期発見に欠くことのできない「教師への相談のしやすさ」について肯定回答 80%以上を目指す。</p> <p>イ. 新入生の部活動加入率を 80%以上とする。</p>	<p>ア. 「教師への相談のしやすさ」は 83%と目標値を達成することができた。いじめ問題、差別問題についてはその防止に努めることは勿論、事案が起きたときに、迅速に組織的に対応することが重要であるとの認識にたち、普段より生徒が些細なことでも教師に相談できる環境作りが大切である。今後も維持していきたい。(○)</p> <p>イ. 新入生の部活動加入率は 78%と、加入率が下がった昨年度より 2 ポイント回復し、ほぼ目標値を達成できた。新入生の入部については、ある程度は年毎の雰囲気左右される部分があるが、コンスタントに 80%以上の加入率を目指したい。(○)</p>
<p>4. 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>心身ともに生涯にわたって健やかに生きるための生活習慣を確立していく。</p> <p>ア. 自己管理能力向上にむけた取組</p> <p>イ. 基本的な生活習慣の確立</p>	<p>ア. セルフ手帳を活用し、「生活習慣力」「時間管理能力」「計画実行力」「経験活用力」を身につけさせ、日常的に生徒との面談を行い学習状況の点検を行う。</p> <p>イ. 効果をあげている従来の遅刻生徒への指導を徹底。欠席がちな生徒に対し、家庭訪問を含め、早期に家庭との連携、対応を図る。</p>	<p>ア. 生徒アンケート「予習復習を毎日していた」という回答 60%以上</p> <p>イ. 遅刻数（通院等を除く）対前年減少率 20%以上。</p>	<p>ア. 学習習慣に係わる項目「予習復習を毎日していた」割合は 52%で、目標値を達成できなかったが、昨年同様、僅かずつであるが割合は増加しており、継続的な指導を行ってきたい。(△)</p> <p>イ. ここ近年減少傾向であった遅刻数であるが、今年度減少率は -16%と増加した。早急な改善策を検討する必要がある (△)</p>